

# 4

## STEP 2 疾患と病態に基づく輸液療法の考え

# 虚血性心疾患 —輸液に何を求めるか—

塩野方明 (北里大学メディカルセンター 循環器内科 部長)

### POINT



急性冠症候群と安定狭心症の違いを理解する！これらは、輸液療法の目的が異なる！

急性冠症候群に対するカテーテル治療と輸液：血行動態を安定させることが目的！右室梗塞や急性心不全を見逃さないこと！

安定狭心症に対するカテーテル治療と輸液：腎臓機能を保護して、予期せぬ事態に備えることが目的！

## はじめに

虚血性心疾患は冠動脈の病気です。心臓は私たちが起きてるときも寝ているときも、休まずに一日10万回程度収縮を繰り返しています。心臓の筋肉が動き続けるためには、酸素と栄養がたくさん必要なのですが、それを心臓に届けているのが冠動脈です。虚血性心疾患とは、この冠動脈が動脈硬化などによって目詰まりを起こす病気であり、おおざっぱにいうと心筋梗塞と狭心症があります。冠動脈は3本しかありませんから、流れが悪くなったらパイプ掃除をするか、詰まった先にバイパスをつなぐ治療を行います(図1)。カテーテルインターベンションは目詰まりを起こした冠動脈をきれいにする血管内治療です。

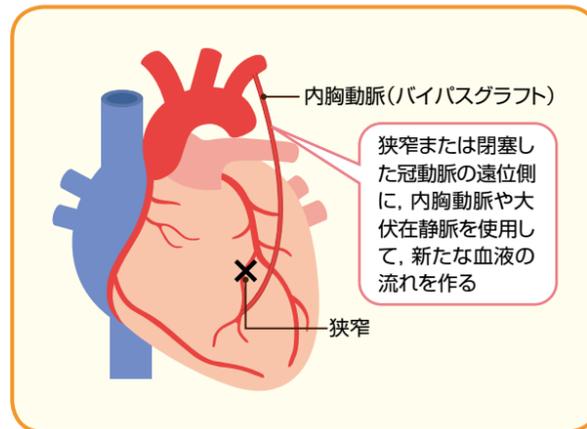


図1 バイパス手術

## 急性冠症候群と安定狭心症の違い

さて、血管が詰まれば心筋梗塞、狭くなれば狭心症、と明快に区別できれば簡単なのですが、心臓の病気はそれほど単純ではありません。冠動脈が閉じている狭心症もあれば、流れている心筋梗塞もあるのです。カテーテル治療(図2)に際

しては、胸部症状が急性に経過しているのか、慢性的に発生しているのか、に注目しましょう。急性冠症候群と待機的症例では、輸液に何を求めるのが大きく異なってきます。同時にカテーテル治療の意味合いも異なってきます。

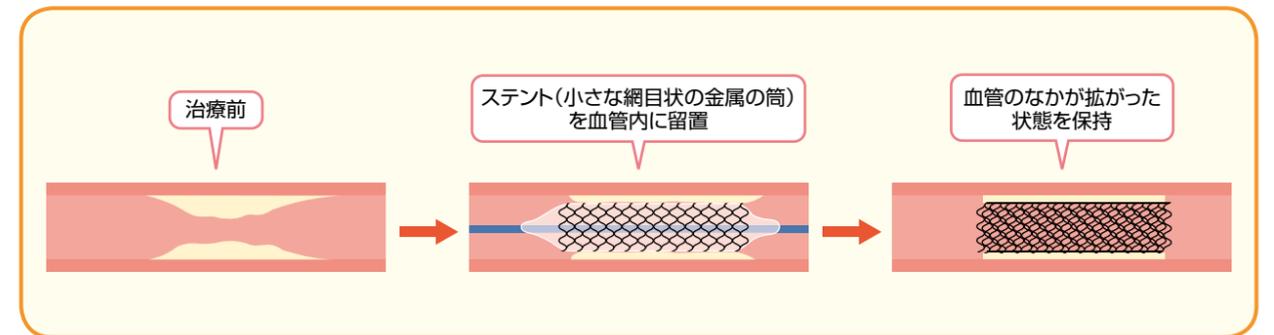


図2 冠動脈ステント留置術

## 急性冠症候群に対するカテーテル治療と輸液

### カテーテル治療

冠動脈が急激に詰まってしまったら、または詰まりかかったら、私たちは多くの場合、急性の胸痛、胸部症状を自覚します。普段病院に来ないような人でも、思わず救急車！とってしまうような急な症状が出ます。このような急性心筋梗塞および不安定狭心症の進行状態にある患者を、「急性冠症候群」と分類し、緊急カテーテル治療の適応となります。急に閉じた血管は、いち早く診断をつけて再開通させることで心臓の筋肉の損傷を最小限に抑えることができる、と考えられているのです。酸素と栄養の補給が急に滞った結果、心臓の筋肉は普段どおりには動けなくなってしまい

ます。急性冠症候群で血圧低下をきたしている症例は、ポンプ失調をきたしている可能性がありますから、素早く適切な輸液療法を行う必要があります。同時に、心機能が急激に低下した症例は心不全をきたしますから、最も適切な治療を見極めるためにも、緊急冠動脈造影検査が有用です(図3)。

### 輸液療法

急性冠症候群に対する輸液療法は、常に急性左心不全のリスクと隣り合わせです。とはいえ輸液量が不足すると、患者は臓器灌流障害から多臓器不全になってしまいます。患者の現在の状態をよ